

がん診療相談室・がんサロン『ゆい』たより



新型コロナウイルス感染症がまだまだ世界的に蔓延しています。自粛疲れでどこか遠くに旅したいと思いをはせても今はむずかしくなってしまうかもしれません。感染が怖くて病院に行きたくない、検査ができないなど不安はありませんか？
当院の腫瘍内科医師に新型コロナウイルス感染症とがん診療について聞いてみました。

「新型コロナウイルス感染症とがん診療」 東北大学病院腫瘍内科：城田英和先生

新型コロナウイルスは病院にとって感染症分野だけではなくがん診療を含む全ての診療科に影響を与えています。どの病院も感染対策を十二分に行っていますが、発熱を含む何らかの症状がある患者が集まるため全国の病院でクラスターが散発しています。6月下旬時点で全国に出された緊急事態宣言が解除され外出自粛は必要なくなりました。外出の中でも通院は最も優先されるべきものですが明らかに受診控えで来院数は減っています。がん診療においても影響はでてきています。がん患者の診察や検査、治療、手術どれをとっても命に関わる診療です。おそらく診断前の段階の受診が長くなっていると思われます。がん検診は相次いで延期、簡素化されています。患者も何か症状があっても受診控えで検査件数も減少しています。がんの医療は感染症と同様に予防と早期発見が重要であり、がん治療への悪影響は必須です。検診を含めた全てのがん医療を止めないよう啓発活動をしていかなければならないと考えています。



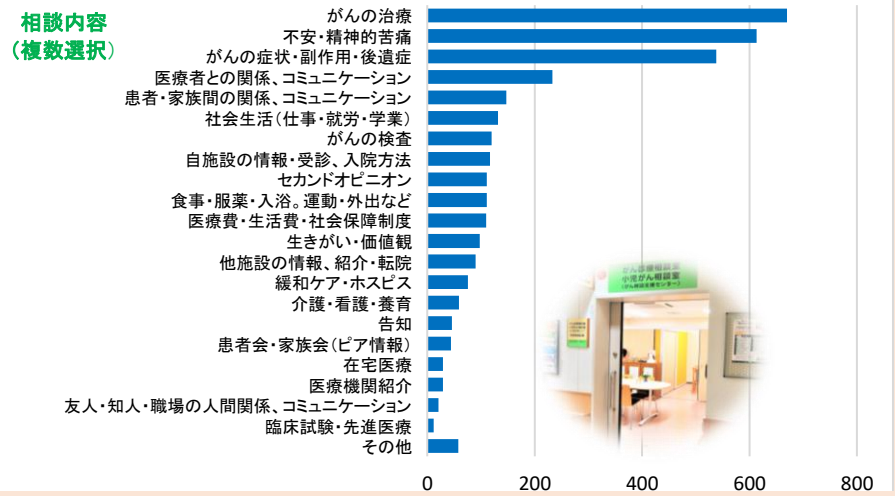
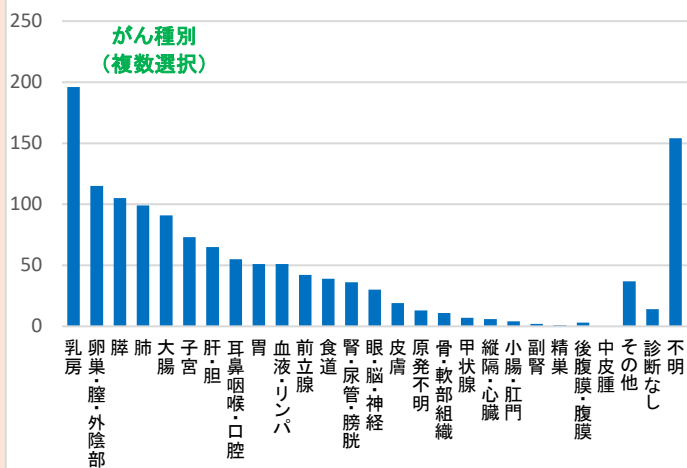
★感染が不安になって検査や受診を控えるなど自己判断することなく主治医とよく相談することが何より大切です!!

★がん関連3学会（日本癌学会・日本がん治療学会・日本臨床腫瘍学会）合同で患者さんに向けて情報を発信中です。

ホームページで確認できます。

令和元年度のがん相談集計から

相談の傾向をみることで、相談室が皆様のニーズにどう答えることができるか考えています。



相談は年間 1,320 件で電話と面談の割合はほぼ同じでした。相談の内容は「がんの治療について」が一番多く「治療の選択をどうする」、「今の治療でいいの」、「これからどうなる」といったこと、がんゲノム医療についての相談も多くなりました。次に多かったのは「不安・精神的苦痛」、「がんの症状・副作用・後遺症」で副作用の中でも脱毛で悩んでいる方が多いようです。相談者は乳がんの患者さんが多く卵巣がん、膵臓がん肺がんと続き、年代では50～70歳代の方が70%をしめました。相談員は話をお聞きし情報の整理と正しい情報の提供に努め必要な時にはソーシャルワーカーや看護師などと連携し対応しています。相談内容によっては直接問題の解決にはつながらないこともありますが、不安や悩みを言葉にして伝えることで気持ちが楽になることもあります。相談室は入りにくいという声も聞きますが、お気軽に入ってみてください。



お知らせ!!



妖怪 あまびえさま

★新型コロナウイルス感染症の蔓延で今年度のイベントは中止していましたが、7月から「ハローワーク相談会」「社会保険労務士相談会」を再開しました。利用にあたっては予約が必要となります。「がんサロン『ゆい』茶話会」と「講話」は中止中です。

★「リレー・フォー・ライフ 2020 みやぎ」は新型コロナウイルス感染症を考慮し中止となりました。とても残念ですが、来年は開催できますように祈るばかりです。

がんサロン『ゆい』の風景



★ 昨年度はのべ 400 名以上の方に
ご利用いただきました。
素敵な作品も寄せられています。
立ちよってみてくださいね!!
★ 早くコロナが終息して安心して
過ごせますように。



編集:古山・油井・山内